

■障がい者支援IT機器体験・展示会実施報告(平成25年度共同募金助成)及び障がい者支援のIT活用シンポジウム実施報告(平成25年度公益信託源河朝明記念那覇市社会福祉基金助成)

1. 活動名称	障がい者IT活用シンポジウム
2. 活動実施期間	平成26年2月28日(金)・3月1日(土)
3. 活動実施場所	沖縄県総合福祉センターゆいホール
4. 共催・後援団体等	共催：認定NPO法人難病支援アセンダーアンビシャス) 後援：沖縄県、那覇市、県社会福祉協議会、県共同募金会
5. 活動の内容	<p>四肢障がい等重度障がい者が使用・活用できるIT・通信機器等で先端的ユニバーサル対応型の機器を展示し、県内障がい者等の皆さんに見て触れて体験していただく機会として、「障がい者IT支援機器等体験・展示会」の開催。</p> <p>また、沖縄県における障がい者IT活用を高めるための方向性や可能性、あり方を関係者、障がい当事者でディスカッションすることを目的にシンポジウムを開催。</p>
(1) 活動人数	体験展示会：220名 シンポジウム：112名
(2) 活動内容・成果	<p>1) 実行委員会の開催</p> <p>開催に向け、企画内容等に対する意見提言や連携ネットワーク化を目指し、障がい当事者、IT事業者、福祉サービス事業者等の関係者10名で構成された実行委員会を2回開催した。</p> <p>第1回：日時／平成25年11月16日(水)14:00～16:00 場所／県総合福祉センター会議室 参加／9名 議題／①企画内容の検討 ②各機関、事業者の取り組み状況</p> <p>第2回：日時／平成26年1月20日(水)14:00～16:00 場所／県総合福祉センター会議室 参加／9名 議題／①プログラム及び進行の確認 ②シンポジウム後のネットワークの方向</p> <p>2) 体験・展示会の開催</p> <p>四肢障がい等重度障がい者が使用・活用できるIT・通信機器等で先端的ユニバーサル対応型の機器を展示し、県内障がい者等の皆さんに見て触れて体験していただく機会として、「障がい者IT支援機器等体験・展示会」の開催</p> <p>○出展：11事業者・機関団体</p>

3) シンポジウムの開催

離島県の沖縄では、障がい者ICT支援機器を見て、触れて、試してみるということが難しく、障がい当事者の皆さんが整備を図ることが厳しい状況があることから、シンポジウムと併せて、先端の障がい者IT支援機器の体験・展示会も開催（2/28（金）・3/1（土））することができた。

○目的

沖縄県における障がい者IT活用を高めるための方向性や可能性、あり方を関係者、障がい当事者でディスカッションすることを目的とした。

○プログラム

14:00 シンポジウム開始

- ・コーディネーターによる趣旨説明とシンポジスト自己紹介
- ・各シンポジストによる報告（各15分×4名＝60分）
- ・岡山県在住のALS患者@岡本興一さんのスカイ参加
- ・フロアとの質疑応答（25分）コーディネーター

照喜名 通 氏（難病支援センターアンビシャス副理事長）

シンポジスト

井村 保 氏（中部学院大学 理学療法学科 准教授）

松尾 光晴 氏（パナソニック（株）企画開発担当）

宮城 幸春 氏（一般社団法人さびら会代表：頸髄損傷当事者）

幸地 英之 氏（沖縄県立さくら野特別支援学校 教頭）

4) 成果

重度の障がいや難病当事者の方々が多く参加。特別支援学校関係者、一般のIT事業者、行政、福祉関係者と幅広い参加となった。

離島県沖縄にとって、実際に見て、触れて、試す機会が難しい中、会場を訪れた、障がい当事者の方々が、「可能性が広がった」「夢に近づけるかもしれない」といった、感動の声が挙がった。また、IT事業者方々も多く訪れ、事業者としての取り組みの必要性や在宅就労等の可能性を感じていただいた。

また、シンポジストについては、

ア. 下マヒの最障がい当事者で、IT活用による社会事業実践されている方の取り組み報告。

イ. 特別支援学校におけるIT活用のモデル実践報告。

ウ. IT企業（パナソニック）でのハンディキャップ支援の開発の意義。

エ. 日本における障がい者ICT活用支援の施策動向に関する報告。

といった障がい者ITを取り巻く各分野の先駆者の方々の取り組み状況や意見提言を受け、離島県沖縄における今後の方向性と関係者のネットワークの必要性をディスカッションした。また、岡山県在住のALS患者の岡本さんのスカイ参加でのITを駆使し、会場の方々へ機器利用に音声コミュニケーションを図り、リアルな機器活用や生活状況を見聞することができた。

<p>(3) 広報</p>	<p>1) 広報</p> <p>ア. 参加呼びかけの内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IT事業者－328 ・障がい者福祉事業者－298 ・社協及び障がい者団体－150 ・他関係機関団体－143 <p>イ. メディア活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェイスブック活用による呼びかけ ・fmタイフーン（ラジオ）出演による呼びかけ－2/21 ・新聞インフォメーションコーナーへの投稿－4紙 <p>ウ. ポスター・チラシによる広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター200枚を社会福祉センター、各市町村ITインキュベーション施設等に掲示 ・上記の呼びかけ事業者及び機関団体にチラシ配布（チラシ作成2千枚） <p>2) 出展事業者の呼びかけ</p> <p>ア. 県外のメーカーや開発事業者等に出展調整を図った一岐阜県のバーチャル工房、パシフィックサプライ株式会社等</p> <p>イ・出展申込み書による出展案内</p>
<p>(4) 活動実施効果</p>	<p>1) 県内、県外の障がい者IT活用実践の状況と動向を啓発広報できた。</p> <p>2) 実行委員会、準備を通して、IT事業者や関係者との連携が深まった。</p> <p>3) 在宅就労を目指している重度の障がい者の方々に情報提供できた。</p> <p>4) IT体験展示会との併催によって、見て、触れて、試す機会となり、リアルで具体的活用の示唆を提供できた。</p>
<p>(5) 反省点</p>	<p>1) 県外の先端技術をもって事業者の参加をもっと図りたかった。</p> <p>2) 参加予定が150名に対し、実績112名で会場満席にできなかった。</p> <p>3) 県内の学識関係者（大学等）との連携を目指したができなかった。</p>
<p>(6) 今後の課題</p>	<p>1) 継続的な連携ネットワークの場づくり</p> <p>2) 見て、触れて、試してみることができる貸し出し用機器等の整備</p> <p>3) 公的機関となる「障がい者ITサポートセンター」の設置促進</p> <p>4) 在宅就労のシステムづくり</p>

■メディア活用による広報



仲根 建作
2月21日

fmタイフーン出演。

今日の「ヒトワク」コーナーで
IT支援機器体験・展示会orシンポの
広報させていただきました。ー 諸見里 杉子さんと一緒です。



■IT に関する県外視察に行き、出展依頼調整しました。



仲根 建作さんが新しい写真を4枚追加しました。
2013年6月7日

午前中「東京都障害者IT地域支援センター(文京区:東京都社会福祉保健医療
研修センター内)に訪問させていただきました。
欲しい情報があり過ぎて、時間がたりませんでした。
堀込事務局長のご丁寧な対応に感謝し、今度もアドバイスよろしくお願
いします。
次はじっくり行きたい。ありがとうございました！
午後から富山県に飛びます。



いいね！ - コメントする - シェア



仲根 建作さんが新しい写真を4枚追加しました。
2013年10月10日 - 吹田市

「ブレイク・ワーカーズ(勇気ある仕事人たち)」

障がい者ITの視察、依頼などの目的で、岐阜県の「バーチャルメディア工
房ぎふ」来ています。

代表の上村敦洋氏は、頭脳損傷で首下マヒの最重度ですが、当事者力を活
かして、全国的にも先駆的な障がい者IT支援をNPOで取り組んでいて、在
宅でバリバリ仕事をこなす「ブレイク・ワーカーズ」の重度障がい者を応援
しています。

ここに、冲脊協が目指す姿があります。

時間がない中、ご丁寧に対応していただきました。
ありがとうございました。

来年2月7日(予定)に障がい者ITに関する展示会やシンポジウムを開催予定
で、上村氏をお呼びしますので、乞うご期待！



いいね！ - コメントする - シェア

■ポスター(A2版)200枚 チラシ 2000枚

障がい者IT支援機器等体験・展示会及び活用シンポジウム
見て・触れて・試す

障がい者が使用・活用できるIT・通信機器等で先進的ユニバーサル対応型の機器を展示し、「見て触れて体験」していただく機会を創設しました
また、沖縄県における障がい者IT活用を高めるための方向性や可能性、あり方を関係者、障がい当事者でディスカッションすることを目的に、シンポジウムを開催します。

体験・展示会
障がい者IT支援機器等体験・展示会
(赤い羽根共同募金助成事業)

日時
平成26年
2月28日(金)・・・13:00～17:00
3月1日(土)・・・10:00～17:00

内容
PCやタブレットを利用するための支援機器・ソフトの紹介や各種メーカー等事業者が出展します

対象 参加自由

シンポジウム
障がい者IT活用シンポジウム
(源河朝明記念那覇市社会福祉基金助成事業)

日時
平成26年3月1日(土)
受付13:30 開始14:00 終了16:30
定員150名 **要申込み 参加費500円**(無料化として)
※参加費は当日現金にてお支払いください

お申込み先
電話・ファックス・メールでお願いします

お申込み先
NPO法人沖縄県脊髄損傷者協会
沖縄県総合福祉センター 西棟2階 10号会議室(体室9F)
〒903-0804 沖縄県那覇市笠原4-17-1
TEL/FAX 098-886-4211
E-mail: sekiren@proof.ocn.ne.jp

コーディネーター 照喜名 通氏
NPO法人 沖縄県脊髄損傷者協会 代表理事

シンポジスト
井村 保氏 (沖縄県立大学 工学部 教授)
松尾 光晴氏 (インテック エンタープライズ(株) 代表取締役)
宮城 幸春氏 (NPO法人 沖縄県脊髄損傷者協会 代表理事)
辛地 英之氏 (沖縄県立大学 工学部 教授)

対象
参加自由。事前の申込みをお願いします

会場共通
主 催 NPO法人 沖縄県脊髄損傷者協会



【障がい者IT活用シンポジウム】お申込書

以下の必要事項をご記入のうえ、FAX又はメールにてお申込み下さい。
なお、定員に達し次第、締め切らせていただきますので、ご承知ください。
※お預かりした個人情報は、本シンポジウムの運営目的以外には使用いたしません。

申込み先: NPO法人 沖縄県脊髄損傷者協会
TEL&FAX: 098-886-4211
メール: sekiren@proof.ocn.ne.jp

参加費
500円
(資料代)

お申込み必要事項

申込機関・団体名	記入担当者	連絡先

氏名	所属・職名等	質問等
1	ふりがな	
2	ふりがな	
3	ふりがな	
4	ふりがな	
5	ふりがな	
6	ふりがな	
7	ふりがな	
8	ふりがな	

■申込み機関・団体の障がい者ITに関する取り組み等あれば、ご記入ください。

■沖縄県における障がい者IT推進に関する、ご意見・ご要望があればご記入ください。

■出展申込



[2013/1/25]

障がい者IT支援機器等体験展示会出展社の募集について
～ITで可能性をひろげよう～

皆さまますますご清祥のことと拝察申し上げます。
障がい者の社会参加を促進するためにITの活用は有効な手段ですが、軽島の沖縄県にとって、流通等の負担変化が高いことから、「見て触れて、試してみる」という機会が難しいことや、先端技術の情報が乏しい状況にあります。
そこで、目眩障がいや難病等重度障がい者が使用・活用できるIT・通信機器等で先進的ユニバーサル対応型の機器を展示し、県内障がい者等の皆さんに「見て触れて体験」していただく機会として、体験展示会を開催します。
つきましては、下記により出展社を募集いたしますので、是非お申込みいただきますようご案内申し上げます。

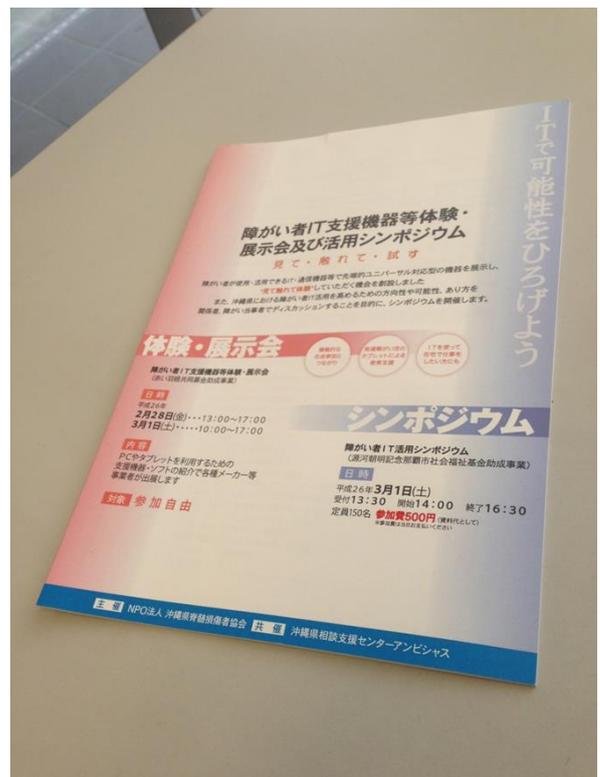
日 時: 平成26年2月28日(金)13:00～17:00
3月1日(土)10:00～17:00
※3月1日(土)午後は「障がい者IT活用シンポジウム」同一会場で行います。
会 場: 沖縄県総合福祉センター いのいホール
出 展 料: 無料
条 件: 主催者では会場と出展コーナーでのテーブル・イス、電源は準備いたしますが
設置、展示会での来場者説明等は出展社でお願いします。

障がい者IT支援機器等体験展示会 **出展申込書** FAX.(098)886-4211
Mail: sekiren@proof.ocn.ne.jp
申込日 月 日

申込事業者 機関・団体	ふりがな	記入 人	ふりがな
所在地	〒	部署	役職
出展担当者	ふりがな	TEL	FAX
	TEL	Mail	携帯電話
出展内容			
必要機・イス	テーブル (W180×H45) × 台	イス × 台	
	・会場は沖縄県総合福祉センターいのいホール(円形300人規模観音ホール)になります。別紙の会場資料をご参照ください。 ・インターネット環境は各出展社でご準備・対応をお願いします。 ・電源はコーナーまで引いてくるので延長コードは必要数を各自でご用意ください。 意見等		

NPO法人沖縄県脊髄損傷者協会 理事長 仲根 建作(担当:砂川)
TEL.098-886-4211 Mail: sekiren@proof.ocn.ne.jp

■当日資料 A4 カラー250冊子



… 出展企業一覧 …

パシフィックサプライ株式会社

重度障害者用意思伝達装置「伝の心」の販売元です。他に福祉用具など多数そろえています。



パナソニック エイジフリーライフテック株式会社

意思伝達装置「レッツ・チャット」の製造・販売元です。介護用品や福祉用品も販売しています。



株式会社 クレアクト

「Tobii」や「マイトビー」などの視線入力コミュニケーション装置の大手販売元です。



株式会社 アイセック・ジャパン

聴覚に問題を抱える方々へ、パソコンやスマートフォンなどを介して文字情報による通訳をお届けするサービスを沖縄で展開しています。



有限会社 ハート義肢

パシフィックサプライの製品を沖縄で販売しています。補装具や手装具を扱ったり、お客様に合ったスイッチ類を制作してIT活用のお手伝いをしています。

株式会社 ケアコネクト

福祉用具屋さんです♪
福祉用具販売、福祉用具レンタル、バリアフリー工事、重度障がい者意思伝達装置、その他できる範囲でのお手伝いを承ります。

魔法のプロジェクト

障がいを持つ子どものためのモバイル端末を活用した事例研究を行っています。
また、沖縄県の特別支援学校チームでの取り組みを行っています。



難病相談センター アンビシャス

難病患者に対して、経済的自立への道を切り開き、仕事情報の提供をしております。
各個人にあった自立を目指すことで、より質の高い生活を過ごせることを目的としています。



H26 3/8 琉球新報



障がい者向けのIT支援機器を体験した来場者。那覇市の県総合福祉センターゆいホール

障がい者をIT支援

アンビシャス 在宅就労も視野

四肢障がいや難病など重度障がい者向けのIT支援機器等体験・展示会と活用シンポジウム（主催・県脊髄損傷者協会、共催・県相談支援センターアンビシャス）がこのほど、那覇市の県総合福祉センターで開かれた。展示会では訪れた約

40人が興味深そうに機器を体験した。当事者や学校現場、メーカーは各現場でのIT機器活用について報告、在宅就労も視野に入れた今後の可能性を模索した。脊損協会が2016年度設置を目指す「障がい者

ITサポートセンター」設置に向けた活動の一環として開催した。パソコンについての相談や在宅就労相談、ボランティア養成・派遣などを担う機関で、全国では半数近くの都道府県に設置されている。シンポジウムでは既に在宅や特別支援学校などでタブレット端末をはじめとする機器が広く活用されている現状が報告された。途中、筋萎縮性側索硬化症

（ALS）で寝たきりの岡本興一さん。兵庫県が意思伝達装置「レッツ・チャット」を用い、インターネットを通して会議に参加、「スイッチ一つで健常者との垣根が低くなり、生活環境も快適になる」など言葉を届けた。

障がい者IT支援機器体験・展示会 写真

土曜日に更新・沖縄県総合福祉センター(ゆいホール)で撮影

2/28(金)・3/1(土)の2日間開催され、220名のご来場がありました



👤 子



■シンポジウム



■体験・展示会

